

## 令和5年度第2回県北広域振興圏地域運営懇談会 会議録

日時：令和5年11月27日（火）13:30～15:30

場所：二戸地区合同庁舎1階大会議室

### 1 開会

#### 【阿部副局長】

皆様、大変お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから令和5年度第2回県北広域振興圏地域運営懇談会を始めさせていただきます。私、本日の司会を務めます、二戸駐在の副局長の阿部と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは初めに、県北広域振興局の坊良局長から御挨拶を申し上げます。

### 2 挨拶

#### 【坊良局長】

皆さんこんにちは。本日は、お忙しい中参加いただきましてありがとうございます。酷暑ということで、夏、暖かい時期がずっと続いているなと思いましたが、先週末辺りから急に冬型になって、そして今日、結構ハードな季節になってまいりました。新型コロナウイルス感染症は5類に位置づけられて、感染状況は相当治まってきている中で、今度は逆にインフルエンザが猛威を振るっており、学級閉鎖など発生しているということで、私どもも気をつけなければならない季節になったと思っております。

さて、本日の会議でございます。年2回で開催しておりまして、今回は2回目の会議ということになります。前回は6月に開催し、今年度の県北広域振興局の取組につきまして、意見交換をさせていただいたところでございます。皆様からの御意見を参考にいたしまして、これまで事業の展開をしてきたところでございます。

本日は、今年度の取組を踏まえまして、来年度の取組方向につきまして主な議題とさせていただきます、意見交換を行いたいと思っております。当管内の重要課題は、言わずもがな「人口減少」、「地域の所得の向上」、そして「交流人口の増」といったところでございまして、振興局、県もまさにこの部分に注力して参りたいと思っております。

本日は皆様の方に私どもの今の考えを御説明した後、御意見をいただきまして、来年度の事業の組立てに役立てていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そして、地域運営懇談会の構成員の方々の任期は2年となっております、今の構成員の皆様が集まる機会は、本日で最後となる予定でございます。この場をお借りしまして、これまでの我々への様々な御協力に感謝申し上げます。最後でございますけれども、皆様、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【阿部副局長】

次に、本日御出席の懇談会構成員の皆様及び県の出席者につきましては、お手元の名簿の配布をもちまして紹介に代えさせていただきますと存じます。

また、本日は御都合により、構成員の千葉暢武様、堤内裕子様、藤織ジュン様は御欠席でございます。それから、お手元の名簿の備考欄への記載はございませんが、古館裕樹様、谷地讓様も御欠席でございます。

議事に入ります前に、配布資料の確認をさせていただきます。本日は、懇談会の次第、出席者名簿、座席表、県北広域振興圏地域運営懇談会設置要綱をお配りしております。

また、次第の下の箱書きに対応しております資料1-1から資料4まで、計5種につきましては、事前に構成員の皆様方に、送付をさせていただいているところでございます。

不足の資料ございましたら、事務局の方までお知らせいただければと思います。

それでは次第の3議題に入らせていただきます。

県北広域振興圏地域運営懇談会設置要綱第4の規定によりまして、運営懇談会は局長が主宰することと定められておりますので、以降、坊良局長が司会進行を行います。

### 3 議事

#### 【坊良局長】

はい。それでは次第の3、議事に入っております。

始めに、報告事項ということで、事務局から令和4年度の県北広域振興圏施策評価結果及び第1回地域運営懇談会の意見に対する対応状況について説明をしていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

#### 【山本企画推進課長】

資料1-1から資料3について説明

#### 【坊良局長】

ただいまの説明につきまして、御質問、御不明な点等ございましたら、手を挙げて御発言をお願いいたします。いかがでしょうか。

古館様、どうぞ。

#### 【古館英彦構成員】

県民意識調査に関する資料2、2ページ目の「令和5年に「感じる」「やや感じる」と回答した人の割合」の右側の「少ない項目（上位）」にある「④子育てがしやすいと感じますか」と「⑤子どものためになる教育が行われていると感じますか」について、逆にそうではないということだと思っておりますが、この辺についてはどのようにお考えでしょうか。

#### 【山本企画推進課長】

ありがとうございます。アンケート結果をご覧くださいますと、県北広域振興圏と県全体の「少ない項目（上位）」は順位が同じでして、共通の課題と考えておりますが、例えば、「④子育てがしやすいと感じますか」というのは、いわゆる子どもを産み育てる環境として整っ

ているかという、受けとめが悪い、あまり満足度が低いということだと思いますし、「⑤子どものためになる教育が行われていると感じますか」というのは、いわゆる公教育、小・中・高、自分の子どもの進路に即した形で教育が施されているかという、満足との受けとめが少なかったという認識をしております。

簡単ですが、以上でございます。

#### 【坊良局長】

パーセンテージだけから見ますと県全体よりは、高めにはなっているということになりますかね。「④子育てがしやすいと感じますか」については、県北で今年度は27.5%ですけれども、県全体では26.4%で若干県北の方が高め。「⑤子どものためになる教育が行われていると感じますか」は、県北は30.2%ですけれども、県全体ですと26.7%ということで、率だけからすると、高めにはなっています。

ただ、④は特に令和4年・5年と比較したときには、減少しています。新型コロナウイルス感染症等の影響が考えられるところではあります。

何か古舘様の方でお考えのことはございますか。

#### 【古舘英彦構成員】

もう一つ進めて、この理由はどんなことを考えているかという内容の設問あれば、もっと具体的にわかると思います。子育てについては、結構二戸では子育て支援についての助成等考えられていて充実していると思っておりますが、それが逆になるというのはどういうことかなと思ったり、或いは、先ほど課長さんのお話にありましたが、公教育に責任があるといわれると、私は中学校の校長だったので、公立の学校はこの結果をどうとらえて、どういう教育していけばいいのかと困ってしまいます。今の先生方が頑張っている中で、どういったことが原因でどう考えているか、はっきりわかると次に対処しやすいのかなと思いを聞いてみました。ありがとうございます。

#### 【山本企画推進課長】

ありがとうございます。

教育について、公教育と申しましたが、教育全般の話だと思いますので、高校を卒業して、専門学校、大学等含めての全体のことだと思っております。大変失礼いたしました。

#### 【坊良局長】

そのほか、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ないようであれば次の議事に移りたいと思います。

続きまして協議事項、令和6年度における県北広域振興局の施策の方向性について説明をいたします。これにつきましては、始めに事務局から資料について説明いたします。そのあと皆様と意見交換を進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは事務局から資料の説明をお願いいたします。

**【山本企画推進課長】**

資料4について説明

**【坊良局長】**

資料4で、来年度の方向性について、今現在我々が考えている部分について説明をしたところでもあります。

この資料をご覧くださいますと、取組の方向性の欄に「自然減・社会減」といったもの、これはいわゆる人口減少対策についての取組を示しておりますし、あと「広域」や「地経費」という記載もございます。これは予算の枠組みの区分でありまして、「広域」は、今まさに県庁との調整の中で予算配分がされる部分でありますし、「地経費」というのは、振興局の判断をもって事業を展開できるものであります。さらに、朱書き括弧で拡充の「拡」と書いているものは、今年度の取組を更に深めていく、範囲を広げていくという趣旨のものでありますし、括弧で「新」と書いているものは、新たな取組としてやっていくものです。そういった区分で、それぞれの取組の方向性について記載しているところでもあります。

ここから、皆様から様々な御意見を頂戴してまいりたいと思っております。

反省すべきは、先ほど課長からも説明がありました若者の出会いの場を何とか今年度創出していきたいということで企画をしたんですけれども、利用者が少なかったため、事業を中止したものでございます。皆様からも6月の懇談会で様々な意見を頂戴して、様々な工夫をしたんですけれども、やはりコンセプト等反省すべき点はあったのかなと思います。そういった点も含めながら、来年度の構成を今回組み立てたところです。皆様の方からぜひ様々な御意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、順不同で御意見を頂戴したいと思えます。どなたか御発言いただける方は、挙手をいただければと思います。最終的には、皆様からそれぞれ発言をいただきたいと思っておりますので、遅かれ早かれ御意見をいただきますのでよろしく願いします。いかがでしょうか。

それでは、阿部様よろしく願いいたします。

**【阿部構成員】**

皆さん、こんにちは。二戸市でプレステージ下中町ひまわりという、障がい者の働くことを支援している事業所で管理者をしております、阿部歩といいます。よろしく願いいたします。

資料4の11ページ、福祉の分野についてお話したほうがいいのかなと思いましたので。先ほどの幸福度調査（資料2）の方にもありましたけれども、子育て支援の部分、もうちょっと満足度が高くてもいいのではないのかなと思っております。

児童虐待に関しまして、課題のところで挙げられておりますけれども、先月だったか、子どもが学校から持ってきた保護者向けの手紙の中に、不登校児童とか、特別教室保健室等で過ごすお子さんが非常に増えているという国の統計があったと記憶しております。私も障がいのある方の支援をしている中で、基本的に働くことを支援しているんですけども、結局生

活全般の支援となるわけで、お子さんのいる親御さんの支援をしているので、児童虐待、児童相談所が関わっているケースに私も関わっているわけなんですけれども、児童相談所の方の負担がかなり大きいのではないのかなといつも感じております。一件一件が大変込み入ったケースであると思います。緊急性が高いものであると思うので、近くにいる者でなるべく対応するところではあります、最終的には久慈の方から来ていただいて対応してもらっています。なかなか負担が大きいのではないのかなと思っています。

例えば、そういったお子さんがクラスにいる、何かしらちょっと関わっていたりするといったことは、子どもたちは敏感にも感じると思いますし、自分自身が楽しく学校に来ることができて自分は良くて、そうではないお子さんがクラスの身近にいるということ、親御さんもそれを感じるということが、全体的な雰囲気として、100点で安心安全な子育てができるという回答にならないのではないのかなと感じております。

やはり、改善していただければというか、件数が増えているのに対して、もうちょっと人が増えてもいいんじゃないのかなと日々感じているところです。以上です。

#### 【坊良局長】

例えば、今のクラスを見たときに、普通の子どもさんがいたり、或いは障がいがあった子どもさんがいる中で、そういったクラスをうまく運営するためには、教職員だったり、そういったフォローができる職員等の人員を増やした方がいいんじゃないかという御意見でしょうか。

#### 【阿部構成員】

そうですね。あと、児童相談所の方の負担が大きいのが目に見えてあるので、その部分。それから、民間教員は増やした方がいいのではないかと個人的には思うんですけども、なかなかそれはハードルが高いと思いますので、民間の力を借りて、例えばスクールソーシャルワーカー、支援員等をもう少し増員して取り組んでもいいのかなと思っています。

#### 【坊良局長】

わかりました。菊池所長、今の児童相談所の県北の状況と、そのフォローのあり方についてお願いします。

#### 【菊池二戸保健福祉環境センター所長】

まず現状でございますけれども、御意見等いただいたとおり、様々な問題を抱える児童さんの相談は一定数当然ながらあって、極端には増えているという話も聞こえてはおりませんが、やはり生徒さん個人だけではなく、御家庭の事情等様々な問題を抱えた中で、そのような状況になっているというのは聞いております。

そういった状況につきましては、第1の窓口となる学校であったり、市町村さん、児童相談所の職員等様々な情報を持っているセクションがありますので、そういったところからの情報を一堂に会して連絡会議などで情報共有しながら、どう関わっていくか、解決に向けて

動いていくかということ、定期的を開催しておりまして、少しずつ解決に向けての対応を図っているところでございます。

一方、対応する職員が足りないのではないかと御意見もいただいております。教育現場等については教育のことなので、一概にこちらですぐお答えはできませんし、市町村、児童相談所の職員についても、簡単にすぐ増やすというわけにはいかないところではありますけれども、先ほどお話しした連絡会議には様々な関係者がおりますので、1人、2人で全て解決ということではなく、皆の力を寄せ集め、解決に向けてどう対応していったらいいかということは密に協議しながら、お互いの力を補完し合いながら対応していくことで、ある程度迅速に対応していきたいと考えています。ありがとうございます。

#### 【坊良局長】

体制については、市町村の方からも要望をいただいております、我々も県全体の中で県北地域についても配慮していただくように要望や、今説明のあったように、全体の力をどう底上げしていくかというところから進めていっているところでございます。

参考にさせていただきます。ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。それでは高浜様、どうぞ。

#### 【高浜構成員】

こんにちは。普代村で森の幼稚園という、野外で保育をする場を運営しています、高浜菜奈子と申します。先ほど子育て関連の話が出ましたので、私も子育て関連ということで、ここで話しさせていただきます。

何点かあるんですけども、一つ目としまして、資料4の1ページ、1の(2)子育て支援のところで、「いわて子育てにやさしい企業等」の認証及び「いわて子育て応援の店」協賛店の登録取得を推進」とあります。応援のお店がリスト化されていると思うんですが、ここにリスト化されているお店と、私たち子育て世帯が感じる「ここが子育て世代が行くのにいいよね」と思っているお店との乖離をすごく感じていまして、その認証というのはどういう点で認証されているのか、そしてそれが継続的にチェックされているのかというところが少し気になっております。このリストに書いてないところに先月宿泊したんですけども、とても子ども連れて宿泊するのがいいなと思う店がありまして、そういうところも積極的に載っていくといいんじゃないかなと思いますし、せっかく載っているのに、「あれ？」と思うようなところに当たってしまうと、そのリストの信憑性が下がっていくと思います。とてもいい取組だと思しますのでより意味のある形でやっていくのがいいと思っています。

また、子育て支援に関しまして、私たち普代村ですとやっぱり子育て世代がすごく少ないんですよ。その中でお母さんたちとお話をすると、「ここで子育てをしていくには孤独との戦いだ」ということをよく聞きます。どれだけ我慢できるかで、ここに定着できるか、もう親元に帰るかが決まるという話が、先月もあったばかりです。子育ては、本来は楽しくて、人生の黄金期かなと私は思いながら過ごしていて、そのようにポジティブに、前向きにとらえられる時期かと思うんですが、それがすごくネガティブに、「我慢」「戦い」みたいなこと

になっていくと、幸福度としても残念だなと思っています。

私がついいいなと思った取組が、4～5年前に田野畑村でやっていた育児サークル制度みたいなものがありまして、子どもを連れて3組以上が集まって時間を過ごすといくらかいただけという制度でした。今の国の政策ですと、保育園に預けると保育料が出るとか、岩手県も今第2子から無料ということもされていて、「預けるとお金が出る」という仕組みだと思うんですけど、その田野畑村でやられていたのが、「お母さんと一緒に過ごすとお金がもらえる」ということなんですね。小学校の先生方から、例えば、情緒不安定という子どもが増えていくという話も聞くんですけど、今はお母さんと小さいうちから離れてしまう方向になっていることもあると思うので、そういったことだけでなく、お母さんと一緒に過ごす、お父さんと一緒に過ごす支援がいただけるっていうのも選択肢の一つとして、いいんじゃないかなと思っています。

都会型の便利であるとか、選択肢があるとか、そういう子育ての視点で考えると確かに劣るといいますか、ちょっと足りないなと思う部分もあると思うんですけど、資料3での質問にあったような、岩手だからこそこできる良いところ、例えば、大人に対する子どもの数はすごく少なく、よく見れる環境にあると私は思っていて、そういうところも魅力の一つだと思います。都内で仕事していたときもあるんですけど、そのときの仲間からすると、子どもをビルの一室に預けていて自分は仕事しているとなると、子どもはすごく狭いところにいる、ちょっと子供に悪いなと思いつながら仕事をしている親御さんたちもたくさんいます。それに比べると、「広いスペースで、自由に遊べる子どもたちはいいな」ととても言われたりするので、そういうちょっと違う視点からのアピールをしていくといいのかな、そういうところを可視化していくといいのかなと思っています。青空の下ですごくいい空気を吸って、子どもたちみんな園庭で遊んでいますというようなことがない人たちも本当にたくさんいると思うので、それもすごく魅力です。ここら辺の住民性というか、ちょっと謙遜しているところはあるかとは思いますが、先ほど挙げていらっしゃったように、子育て環境としてはすごくいいと私は思っているので、もっと積極的にアピールしていくといいのかなと思っています。以上です。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。いわて子育ての応援の店や認証について、コメントありますか。

#### 【菊池二戸保健福祉環境センター所長】

まず、「いわて子育てにやさしい企業等」或いは「いわて子育て応援の店」の認証等ですが、「子育てにやさしい企業等」の認証につきましては、そもそもこの企業さんの取組として、企業の中の職員さんが子育てしやすいような環境に取り組んでいただいている企業さんを認証する制度でございます。また、「子育て応援の店」については、これは地域全体で子育てするときにサポートいただくようなお店ということで、認証基準があって認証しているところです。認証になっているお店について、また認証されていないお店の方が子育てに優しいのではないかという御意見もいただいておりますが、認証店、なかなか最近伸び悩み

もございまして、新しいお店をこちらでも探しているところがございます。ぜひ、そういった子育て支援に取り組んでらっしゃる企業さんやお店の情報を教えていただいて、こちらの方で積極的にそういったところに訪問するなどして登録を進めながら、地域全体で子育てに優しい雰囲気、地域づくりができるように、引き続き対応をしてまいりたいと思いますので、御意見等いただければと思います。

あと、田野畑村でやっている取組ということでございますけれども、子育てをやっているお母様方を集めて、息抜きをしていただくような機会をつくるということは、岩手県の取組でもやっているとありますけれども、お金を払うことまでの取組はできていなかったと思います。先進的に取り組んでいただいている市町村さんもあるようですので、そういったことも参考にしながら、今後の施策の中で、より子育てしやすい環境というのは、やはり引き続き取り組んでいかなければいけないと考えております。いずれ、今回の意見を参考にさせていただきながら、次の施策につなげていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

#### 【坊良局長】

私の方からも。いわゆる田舎での子育て環境のよさをもっとPRしていく必要があると、高浜様もおっしゃっていました。移住定住の関係で、この県北地域を何とか認知度を高めていきたいと先ほど取組の方向性でも説明したんですけれども、そのPRの中に、今言ったような、この地域での子育て環境のよさを可視化・具体化しながら、PRポイントの一つにしていきたいなと思っております。ありがとうございます。

何かもし関連であれば、いかがでしょうか。よろしいですか。

それではまた次にまいりたいと思いますが、次はという方は。では、川代様、どうぞ。

#### 【川代一枝構成員】

まず、所得の向上という面から、地場産業、農業、漁業、こちらはやはり基盤として岩手県ではもっと力を入れて伸ばしていただきたいところだと思います。もちろん、漁業者の方も、林業の方も、改善・工夫をされていると思いますので、より期待をしています。

所得が安定しますと、やはり精神的にも安定します。自殺対策としても、健康の面、経済的な面が両方大事なんですけど、ここは変動しますので、それを下支えするという意味で、地域との繋がりを、保健推進の立場でこれからも一層取り組んでいきたいと思っております。

特に高齢者の孤立が言われていますが、高齢者だけではなくて、働き盛りの方と、今は核家族が多いですから、そういう意味では、家庭内でも割と閉鎖されています。なので、地域に開かれた社会において、もっと幸福度が高められればいいなと今日感じておりました。

この幸福度調査（資料2）で、「㊸自然に恵まれていると感じますか」は高いわけなんですけど、「㊹地域の歴史や文化に誇りを感じますか」がとても低くなっています。この点について、もし、子ども達に対し教室等で改善できるのであれば、もっと産業だったり、結婚や将来についての考えについても、幅が広がるのではないかと思います。

今回、三陸鉄道・金田一温泉で7組のカップルが成立したと書いてあります（資料4の1



ページ)が、若い人が求める出会いの場を提供しないと、結果がついてこないかなと感じました。現実的ではないのですが、例えば、ビッグブルズの応援と出会いイベントを一緒にするとか、何かそういうことを金田一温泉の延長戦で考えていただければ面白いことも起きるのかと思っております。

また、教育現場においては、教職員の方たち、がんばっておられます。子どもたちには、もちろん親御さんがいらっしゃるわけですね。だから、ここにおいても所得の安定が、やはり家庭・子どもたちの安定にも影響を与えるところだと思います。

行政も地域も産業も一体となって、取り組んでいくことはとても多いのですが、頑張りどころだと思っております。ありがとうございました。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。結婚支援等についてコメントありますか。

#### 【菊池二戸保健福祉環境センター所長】

出会いイベントの関係で、御意見等いただきました。出会いイベントにつきましては先ほど説明したとおり、ある一定の成果というのは出てはおりますけれども、そういった中でも、どういったイベントがより好ましいかというところは、事業者と参加者、それから県も含め、いろいろと協議をしております。ビッグブルズの応援というところも、例えばということでお話いただいてありがとうございます。そういった趣味を通じながらやるということも大事な視点かなと思いましたが、そういったこともやればいいのかなどは感じているところでございます。

一方、参加していただいた方々からお話を聞くと、出会いのためのイベントなので、あまりいろんなことをやるのではなくて、最終的に落ち着いて話す時間・場面が欲しいということもお聞きしているところでございます。なかなか難しいところであるんですけども、そういったところも考えながらより良いイベントにして、参加していただく、或いはカップルにつなげられるように、来年度も事業として実施することとしております。頂戴した御意見も参考にしながら、来年度以降も取り組んでまいりたいと考えております。ありがとうございます。

#### 【坊良局長】

そのほか、いかがでしょうか。それでは、川代様。

#### 【川代利幸構成員】

ミドリ久慈衣料の川代と申します。アパレル産業への様々な支援、ありがとうございます。

若者の地元定着とUターンの推進ということで、高校生を対象にした事業理解セミナー等をしていただいているところなんですけども、対象者が現在高卒の就職希望者になっているような気がします。今、高卒で就職する人はもう4分の1になっているんですね。なので、高卒で就職ではなくて、進学を希望している人たちへの業種理解セミナーや企業紹介などの

場を設けていただければ、一旦出て行った人たちが戻ってきやすくなるのかなと思っております。そういったことをやっていただきたいと思っております。

また、管内アパレル企業へのインターンシップの受入れ支援ということでもいろいろ御支援いただいております。弊社でも、今年の春、インターンシップを受け入れたんですけども、横浜の人で、こちらへの就職を全然考えてないような人がただ勉強をしたいというだけで参加してきたような感じでした。対象者を絞って、この地域から出て行った人を対象にするだとか、そうしていただければUターン等が進むと感じておりました。

あとは、できるかどうかですけども、進学した人達がどこの大学、どこの専門学校へ進学したというような資料等があれば、学校訪問がやりやすくなると思っております。そういった資料等があればいただきたいと思っております。以上です。

#### 【坊良局長】

では、鎌田所長。

#### 【鎌田二戸地域振興センター所長】

何点か御質問ございましたけども、まず、進学希望者に対する地元定着に向けた取組はどうでしょうかという話だったと思います。どうしても進学者に対しては、私どもも非常に取組が難しいと感じているところでございまして、進学すると決めた段階でコースが分かれたり、或いはそもそも進学が多い学校に行くということもございまして。ただ、進学校に対して無理に（セミナーに）来てくださいと言えないところですから、もう少しその前の段階、中学校の方にも間口を広げた形でアプローチをしていけないかと考えております。あと、大学や専門学校に行って戻ってくる方に対しても、アパレル産業においては、私どもとアパレル振興会さんと、一緒に企業訪問や学校訪問等をさせていただいたところですので、そこは留意しながら取組を進めていきたいと思っております。

それから、インターンシップに就職希望の方が来ていないという話だったと思います。インターンシップには二面性があるって、学校側とすればキャリア教育の一環ということ、企業の側からすればリクルート活動の一環ということで、若干のズレがあります。間口を閉じると、そもそもインターンシップに来てくれないという懸念があります。実際来てみてから、すごくいい環境だ、企業だということで、当初勉強のつもりで来た方も県内に定着するという事例もございまして。事前に対象者を振り分けてということはそういった課題もございまして、可能性をとっていただくというところで、少し負担をかける形になるかと思っておりますけれども、御理解をお願いします。

先日、東京の専門学校に訪問したんですけども、就職担当の方から「国内での工場が少なくなって、縫製業に就職したいという学生の行き場がない」という話も聞いておりました。「振興会やアパレル関係企業さんからどんどん求人を出してください」という話も聞いておりましたので、その点は共有しながら進めさせていただきたいと思っております。

もう一点、進学先のリストを学校訪問等に活用したいということでした。今時点で手元にありませんが、例えば学校のホームページ等に載っている進学先などの公表データであれば、

私どもの方で取りまとめて提供ということもできるかと思います。多分アパレル企業さんだけでなくいろいろな企業さんも関心があると思いますので、展開の仕方も含めて検討させていただきたいと思います。

#### 【坊良局長】

様々事情もあるものですが、御理解いただきながら、いずれアパレル振興会さんと一緒に連携しながら、考えてやっていきたいと思います。よろしく願いいたします。

そのほか、では、小松様よろしく願いします。

#### 【小松構成員】

こんにちは。小松製菓から参りました小松と申します。よろしく願いします。

先ほど高浜さんがおっしゃっていた子育て支援「いわて子育て応援の店」について、当社で経営している四季の里も「いわて子育て応援の店」で、確かアンケートが来て、子ども用のいすがあるか等の項目がいくつかあって、そこにチェックして、そういうお店が載っているという認識なんですけれども、利用する方からすれば、店に何があるのかが明記されている方が分かりやすいと思います。例えば、ミルクのお湯を供給できるといった全部の項目が、それぞれのお店についているという方が分かりやすいと思いました。

私は観光役員なので、観光のところでお話をさせていただきます。

資料4の10ページの4番にある「ロケツーリズムの推進」というのは、あまちゃんのロケ地を巡るというものなのであれば、現状、あまちゃんが放映されてから減少傾向にあるところに、これをやる意味があるのかなっていうのが正直思うところです。

「フォトロゲイニング大会の開催」というのは、ざっくりいうと多分ポケモンのアナログ版みたいな、チェックポイントを周るもので、花巻や宮古でやったことがあるものかと思いますが、こういうものは、どういう方々を対象にしてされるのかなと。県内なのか、全部県外なのか。やっぱり興味を持ってもらわないと、なかなか参加者も集まりにくいのかと思いますので、もう少しスマートフォンとかを使って、QRを読みながらゲーム感覚で楽しめるという特典があるという方が、参加する人が楽しめるのかなと思いました。

6番の「歴史文化を活用した魅力発信」で、「九戸城まつりの開催」とありますが、県外から出張に来られる方で、弊社に来られるお客様でも時々「九戸城ってどこにありますか」とおっしゃる方もいらっしゃって、わざわざ探して見に行かれて、お堀のところ、あったところを周ってこられているというお話も聞いたことがあります。全国で城マニアはたくさんいらっしゃると思いますので、ただ普通に出店的なものを出してお祭りをやるよりは、わざと夜に開催して、九戸城の城がこうだったであろうということをプロジェクトマップにしたり、スクリーンで九戸政實さんのストーリーを流すとか、二戸にもっと興味を持ってもらえるようなものがあれば、夜開催すれば宿泊もしますし、旅行がてら行こうかという形にもなれるのかと思いました。

二戸の宿泊、金田一温泉等に泊まったときに、周りに何があるのかということを御案内はされていると思うんですけど、もっと具体的に、それぞれの施設でお店のおすすめ等が見る

ことができるような形のものを用意するとか、二戸市内の飲食店、店舗、タクシー会社さん等いろいろなところと契約をして、例えば宿泊者が二戸のカードを持って提示すると割引特典を受けられたり、何かのサービスを受けられるようなことがあっても面白いと思いました。

全体的なところで言いますと、先ほど子育て支援のPRがちょっと、という話があったと思うんですけども、PRはどのように行っていらっしゃって、対象・ターゲットはどこに定めているのか。それぞれ違うと思うんですが、例えば、観光の場合はターゲットをどこにされているのか、子育て支援等はどういうターゲットにされているのかというところが伺いたいです。

最後に、岩手県は地産地消率 100%以上だと思うんです。当社でも、果汁を使った商品を作りたくて、業者さんに「地元のものがいいです」とお話ししたときに「岩手、県北のものでは今のところ使える果汁がないので」と言われました。ということは、その情報がないということなのかと思います。例えば、私が考え得る限り、リンゴジュースやさるなしジュースはあるじゃないかと思うんですけど、そういうものが一切出てこなくて「これからもうちょっと探します。今取引先のところで全部調べた限りではありません」という返事だったので、そういう情報ももう少し出るようになれば、生産者の方々への貢献にもなるかと思っています。

#### 【坊良局長】

それでは、前段の方はまず鎌田所長、いいですか。

#### 【鎌田二戸地域振興センター所長】

はい。ありがとうございます。たくさん質問がありましたので順番にお答えします。

まず、ロケツーリズムについてお話がありました。こちらはあまちゃんに限らないで、いろんな映画撮影等をどうにか引っ張ってこようということで取り組んでいる内容になります。他の地域でも一生懸命頑張っていて、そういったロケツーリズムに取り組んでいるものはあります。久慈の方で実施している内容は、詳しくは分からないのですが、あまちゃんを中心にロケをしたところを周るというものがありますし、二戸地域では、ロケツーリズムの範疇に入るか分かりませんが、アニメハイキュー、今年新しい映画もできているということでしたので、そういった映画、ロケ地を巡るツアーをどうにかして取り組んでいきたいというところでは、今、小松様からありましたとおり、あまちゃんはちょっと人気の方が陰っているのではないかという話もございましたので、そういう部分を少し加味しながら、内容を考えていくようにしたいと思います。

それから、フォトロゲイニングの関係でしたけれども、こちらはお話のあったとおりで、オリエンテーリングのチェックポイントの代わりに写真を撮っていくものです。全国にフォトロゲイニング協会というのがございまして、公認大会に認定されると、ほかからもフォトロゲイニングが好きな人がやってくるという現状で、県内はもとより、県外の方も対象とした内容で組んでいるところございまして、募集人数はほぼ満たしている状況です。フォトロゲイニングが好きな方は随分いらっしゃるという印象がございまして。

九戸城の関係につきましては、全国を見るとお城好きの城マニアの方は相当数いらっしゃ

いまして、そういった方をどうにか二戸地域に引っ張ってきたいと考えております。具体的な取組としては、本年度は12月に横浜でお城 EXPO という行事がございまして、そちらの方に九戸城として出展いたしまして、二戸地域までの行き方ですとか、九戸城の隠れた魅力とかを伝えていきます。マニアの方にはかなり興味関心を掻き立てるようなお城のようですので、そういった機会も活用してどうにか九戸城という資源を活用して誘客につなげようと考えております。御提案のありましたプロジェクトマッピング等夜のイベントについては、参考とさせていただきます、これからどういうやり方がいいか考えていく素材として捉えさせていただきますと思います。

それから、宿泊している周辺に何があって、どう伝わっているのかというお話がありました。割引特典もいろいろやってみると効果的ではないかとのこと、今、インターネットも普及して、検索するのは紙ではなくウェブかなどいろいろ考えているところがございます。泊まった方がどのように行ける場所があるか等も含めて、情報発信の仕方は工夫していきたいと思っております。

全体的に観光はどこを局としてねらっているんですかというお話がございました。まず局としては、あまり遠くへはアプローチしづらいというところもあり、広域観光の取組としては、まずは八戸圏、それから秋田鹿角で、縄文という切り口でスタンプラリーを開催しております、今年度からは青森県の三八地域県民局と連携して、お互い広域で観光・交流を深めようとして取り組んでおります。南の方は、やはり盛岡圏辺りをターゲットとしております。PR媒体等については、引き続きターゲットとする地域を意識しながら取り組んでいこうと思っております。

御提案を含めて、ありがとうございます。

#### 【坊良局長】

では、田口所長。

#### 【田口二戸農林振興センター所長】

先ほどの果汁の情報提供という話ですが、県内においても、地元の業者さんと連携して地域の農産物を使った商品開発とか、材料提供というようなことは、取組が進んでいます。ただ、当管内においてはなかなかそういうところに至っていません。例えば、県内の農事組合法人さんが野菜や果樹のジュースを作ったり、さらに、地域の農家の受託製造などをやっているんですが、なかなかこの地域で進まないということは、業者が求める品質や、あと一番大きいのはロットですね。ロットは担保できるかとか、あとは時期の問題とか、様々な課題があります。例えば岩手中央農協が窓口になって県内の業者と連携する等、ある程度ロットを確保するという点について一農家ではなかなか厳しいと思いますので、二戸管内の果樹生産者も結構いらっしゃいますので、そういう方々の情報を共有しながら、小松製菓さんと連携できるかわかりませんが、何とかこういう魅力のある取組を支援していきたいなと思っておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

### 【坊良局長】

小松様、よろしいでしょうか。

私の方からちょっと補足ですけれども、フォトロゲイニングの対象は、ファミリー層からシニア層まで結構幅広いです。今、鎌田の方から説明がありましたけれども、フォトロゲイニングに参加することを趣味にされていて、しっかりした身支度で何十キロも歩いているような身軽な方々が結構全国からいらっしゃっています。地元の人も「普段は何気なく見ていたんだけど、歩いて見ることによって再発見に繋がった。ぜひ来年もやって欲しい」ということで、何回もその地域で繰り返しやっていて、リピーターも増えています。そういったことを盛り上げて、毎年開催できて、毎年同じ時期に人が集まれるようなものにしていければいいのかなということで取り組んでいるところであります。

そのほか、こちらのラインの方々はいかがでしょう。野田様、よろしく申し上げます。

### 【野田構成員】

洋野町大野の特別養護老人ホーム久慈平荘の野田です。

ずっと考えていたんですけど、九戸城の話の絡みで、例えば、地元だと九戸政實の方だとは思いますが、できれば攻めてきた人たちの陣地がこの辺にあったというのがあると戦国好きにはたまらないかなと思います。この辺に陣地を置いてこう攻めてきたというのを併せて出していただくと、マニアの人にはたまらないと思いますので、ぜひお願いします。

私の方からは、1点質問と2点要望です。

1点目が、資料4の2ページの(4)です。特定地域づくり事業協同組合の設立支援の話がありました。九戸村さんの方で設立に向けて動いていると伺いましたが、今の段階での設立目標年次とか、この特定地域づくり事業協同組合の派遣先としてどの辺りが九戸村では話題に挙がっているのかということが気になりましたので質問させていただきます。

それから、要望です。県北広域振興局の担当範囲ではないことをいつも言うてしまうんですが、例えば、資料4の11ページの真ん中の段落の現状のところ「県北圏域の医療機関数や医療従事者数は県平均より低く、厳しい医療環境」とあります。この絡みで、私も福祉の関係なのですが、久慈病院と二戸病院があり、私の場合は久慈病院にいつも高齢者の方がかかるんですが、可能でありましたら要望です。いわゆる施設に入っている方へのオンライン診療を積極的に医療局等に進めていただければと思っております。具体的にイメージできる例を出すと、高齢者の方、老人ホームに入っている方が久慈病院まで行くんですが、洋野町大野から久慈まで車で片道30分です。例えば10時に予約が入っていても、診察を受けるのは12時とか1時になります。そして帰るのに30分かかります。これは仕方ないんですが、例えば2時、3時まで運転手さん、施設の看護師さん、そして利用者の方、高齢者が久慈まで行って、長時間お昼ご飯も食べずに診察を受けるということを考えると、医療従事者、看護師の方がただ病院で待っている時間が本当にもったいないなと私は思っています。施設で安定している利用者の方は、できればオンライン診療で、施設の中で久慈病院の先生から診察を受けられる環境づくりに御支援いただければと思っております。

もう一点は、中学校の部活を2025年までに地域移行してくださいということが打ち出され

ております。基本的には市町村の教育委員会のレベルの話なのですが、洋野町では、去年生まれた子どもは35人から40人ぐらいの間だったと思います。40人弱の子どもさんしかいないところで部活を地域移行したとしても、やりたい競技をまとめてやる、例えば野球やサッカーをやりたいとなったら、洋野町だけチームができないんじゃないかと思っております。市町村ごとの地域移行も一つの方法だとは思いますが、その次の段階で、できれば久慈地域でサッカー部を作るとか部活の参加を募るといことも、広域的な、広い観点で話ができる県の職員の皆さんにも御支援いただければと思っております。以上です。

**【坊良局長】**

それでは、病院の関係をお願いします。

**【菊池二戸保健福祉環境センター所長】**

私の方から、オンライン診療の関係について御説明をさせていただきます。今、野田様からお話をいただいたことにつきまして、県北管内の市町村の方からも遠隔での診療の要望等が出されております。実は県の方でも、今宮古市の重茂地区というところで、重茂地区も市内から大分遠いので、そこで試験的にオンライン診療を実際にやって、どういう成果・課題があるかという整理を今年度取り組んでおまして、そういった成果などを共有しながら、どういったことができるかについては、今後も継続して検討していくこととなっております。すぐにオンライン診療をするかということはお約束できないところではありますが、検討にはもうすでに入っているというところがございます。

また、オンライン診療、遠隔診療に必要となるハード的な部分の整備等については、民間の事業者さんがやられる場合に、先生だけではなくて、そういったハード面、やはり機器がないとオンライン診療できないところもありますので、そういった補助制度も県の方で準備して、それなりの金額を補助するということは聞いております。そこは個別にということにはなるとは思いますけど、そういった取組は進めているところがございますので、様々な御意見を頂戴しながら、オンライン診療の実現に向けて、少しずつですが対応していきたいと考えております。

**【坊良局長】**

今の点で、この前の県立久慈病院の病院運営協議会でもやはり同じような意見を出されています。今の基本的な方向性は菊池所長のお話ししたとおりなんですけれども、メリットとすると、久慈病院も岩手医大から応援で来ていただくのに2時間半かけて来てもらっています。もし、オンラインでできるのであれば、その移動時間が効率化できるだろう、それは医療者のメリットになるというようなお話もありました。そして、課題とすると、患者さんのいる現地にはやはり医療従事者、例えば触診や超音波などの機器操作ができるような医療従事者がいないとオンラインで双方向の意思疎通ができないので、今言ったそのハードの面もそうなんですけども、医療従事者で相手方、診察を受けるところの方の技術養成が必要だという課題もあります。ただ、実現に向けて、いろんな検討していきましようというような話

をしておりました。方向性は今菊池所長のお話ししたとおりでございます。

それでは、特定地域づくり事業協同組合の関係ですね。山本課長、お願いします。

#### 【山本企画推進課長】

御質問のありました九戸村の特定地域づくり事業協同組合の検討状況でございますが、聞くところによると農林業の方々を中心に組合員の構成を検討していると聞いております。また、目途とすれば今年度内の組合設立に向けて一生懸命検討していると聞いておまして、我々も今この取組状況については注視をしているところでございます。今構成しているのは農林業なので、そういったところに派遣をしていくイメージでいらっしゃるのかなと思っておりますが、組合員として構成される事業者の方々を、いろいろお声掛けをして募っていて、それから具体的な組合化に向けて検討されていくものと思います。我々が分かっている情報がこの程度のものなんですけど、ただ県北では一番先行して今検討進められているので、引き続き情報収集していきたいと思っております。

#### 【坊良局長】

教育の関係は、確かに広域でやらないとですね。今、高校野球でも合同チームがありまして、広域でチーム編成しないとやっていけないというような状況もありますので、中学校の部分だってそうなっていきますので、そこはしっかり教育委員会へも伝えながら検討してまいりたいと思います。

それでは、次にどなたかいらっしゃいますでしょうか。内野澤様、どうぞ。

#### 【内野澤構成員】

野田村で養殖をやっている内野澤と言います。よろしくをお願いします。

私たちの養殖生産物のメインであるホタテは、2年続けて大量のへい死が起こっておりまして、その原因が、水温が高いせいなのか、またそれだけなのか、まだ答えが出ていない段階であります。その答えを探すのも大事なんですけれども、高水温でも適応できるアサリやカキなどへの取組も必要なのではないかと思ひまして、そこで指導や助言の方を来年度してもらえれば大変助かると思っております。

また、ウニやアワビの餌となる昆布・海藻などがものすごく無い状態になっているんです。なので、それを今年少しでも解消できればと思って、自分のところでは数年前まで昆布の養殖をやっていたので、その技術を使って、養殖した昆布を磯場に餌として、給餌しようかと思ひていました。そういうのもまた指導をお願いしたいと思っております。

いろいろ解決したい課題はいっぱいあるんですけども、担い手の問題とか。それは徐々にまた考えながら、とりあえず先2点を、何とか検討よろしくをお願いします。以上です。

#### 【坊良局長】

それでは、水産部工藤部長。



#### 【工藤水産部長】

まず、ホタテのへい死について、水温だけか、それ以外の要因があるのかということに関しては、昨年、今年と調査を始めておりまして、来年以降もきちんと調べていきたいと考えておりました。

また、高水温、温かい地域で養殖されているアサリやカキの導入につきまして、今年度、大船渡にある栽培漁業協会でアサリの種苗の生産を行っておりまして、それが希望する各地域に配布される予定になっておりますので、それを用いた養殖試験を、今年度から漁協さんと一緒に協力して取り組んでいく方向で考えておりました。また、カキに関しまして、今年ホタテの調査をやっている、天然で発生したカキの稚貝が付着しているのが確認されておりますので、その可能性も検討してまいりたいと考えております。

2点目の天然昆布の減少に対する餌昆布の投入についてでございますが、岩手県の場合、磯焼けの原因としてウニによる食害が非常に大きな要因と考えられておりますので、その摂餌圧（注：食害生物が餌を食べることによるダメージ）を減らす上でも養殖した昆布を有効利用することは非常に効果があると考えております。こちらの方に関しましても、県としては進めてまいりたいと思っておりますので、協力してまいりたいと思っております。以上です。

#### 【坊良局長】

いずれ、全面的に支援してまいりますので、よろしく申し上げます。

それでは、古館製麺の古館拓様、お願いできますでしょうか。

#### 【古館拓構成員】

私からは2点です。まず、資料4の6ページ「地域資源を生かした観光・交流連携」のところです。県外から観光客誘致したり、ひいては交流人口の増加と、できれば移住までつなげていきたいんですけども、二戸、県北の地域の特色として、結構サブカルチャー、九戸でいえばオブチキさんとか、二戸だと浄法寺のねこ、SaToMansion、軽米だとハイキューとか、それだけ充実しています。大きな観光地などの王道もいいですけども、そういうサブカルチャーでターゲットを絞った企画で攻めていくのがいいのではないかと考えています。軽米町に関して言えば、この夏以降訪れる観光客、ほとんどハイキュー目当てのお客さんなんですけど、全体の約6割が海外からのお客さんになっていきます。海外からの割合のうち半分ぐらいが台湾、それから中国、香港、東南アジア系、北米関係となっていて、台湾辺りのお客さんが非常に多いです。泊まるのは金田一温泉だと思うので、この県北地域の食文化とか観光案内のパンフレットを、海外向けの英語や中国語、繁体字などで作るの重要だと思います。

子育て支援の方で、うちも小学生の子どもが2人いるので、この会でも何回も言っているんですけども、この地域には子どもを遊ばせる場所がなかなか少なく、どうしても休日子どもを連れて出かけるとなると、盛岡とか八戸とか県外に出してしまうので、引き続き、子どもが遊べる場所を充実させていただきたいというのは要望します。

その件で言うと、先ほどのサブカルチャーとも重なるんですけども、今年久慈に新しく

できた道の駅でポケモンの公園ができたことはうちの子どもたちも非常に喜んで、もう何回か遊びに行っています。ポケモンさんも、こういう寂れた地域に結構重点的に手を差し伸べてくれて、沿岸部にも結構重点的に無償でいろんなことをやってくれているので、岩手県とポケモンがちょうど連携協定を結んでいるので、そこをうまく活用するのもいいと思います。私からは以上です。

#### 【鎌田二戸地域振興センター所長】

まず一点目はサブカルチャーをターゲットにしてはどうかというお話だったと思います。私も実は二戸に大体2年前に来てから、サブカルチャーが強いなと思っておりました。そういったオブチキさんとか、ねこさんとか、或いはにのへシャドーズとか、どうにかできないかと思っております。具体的には、来年度広域予算で、本庁との予算協議の結果次第ではありますけども、資料4の6ページに「北いわてアドベンチャーツーリズム」とあります。これは、アドベンチャーとありますが、どちらかというといろいろ体験して、高付加価値型の旅行商品にしていくものでございますので、こういったサブカルチャーも地域資源の一つとカウントしてどうにか生かせるよう、来年度検討していければと思っておりますので、よろしくお願いたします。

それから、海外向けのところでは、二戸地域全体で外国人が増えたという現状ではございませんけども、ただ、ハイキューという切り口で、軽米町さんの辺りは外国人観光客の方が入ってきているというお話も聞いております。お話いただいた繁体字での観光案内についても一つの課題として捉えまして、来年度もどうにか対応できるか検討していきたいと思えます。

#### 【坊良局長】

よろしいでしょうか。

それでは、あとお二方ございます。お隣の古舘様、よろしいでしょうか。

#### 【古舘英彦構成員】

よろしくお願いたします。私はユネスコ協会なので、それに関わることで少しお話しします。

今年の10月7日に岩手県ユネスコ協会の県大会を一戸で開催しました。「SDGsと縄文文化を学び、持続可能な社会を目指そう」というテーマで、縄文を世界遺産にした担当の調査官、鈴木地平さんに基調講演をしていただいて、いろいろな話をしました。世界遺産をまちづくりにどう生かすかというお話だったんですけど、その中では、世界遺産御所野だけではなくて、広域的な観光資源、二戸市の漆や九戸城などいろいろあるわけですが、そういったものともっと連携していく必要があるんじゃないかという話をされました。確かに、単発でやっていますし、PRはまだまだ足りないなと私は思っています。

御所野縄文公園の入込客数が減少しているというのは、私も担当の方から聞いていて、何故かは分からないのですが、コロナ禍のときには県内やこの辺の小・中・高校生の修学旅行みたいな団体が結構入っていたんですね、宮城とかへ行けないですから。そういっ

たものが影響しているのではないかと思います。

実際は、一戸南小学校の御所野愛護少年団にも問合せが来ていて、結構案内をすることもあるということをお聞きしました。或いは、外国の方、遠い方が来ています。やっぱり興味がある方達は歩いて回っていますので、まだまだ私はPRが足りんじゃないかと思っております。縄文遺跡群は17遺跡あるにしても、御所野はその中でどういう位置づけなのかということとか、それから、全国の中で実験考古学をやっているところは、御所野だけと言っていいのではないかと思います。それを受けて一戸南小学校の子どもたちも実験考古学みたいなことをやって、自分のガイドを案内する資料に自分たちが学んだものを使っているわけですよ。だから、来た人たちはすごく感激・感動して帰られます。やっぱりそういった本質的なところを伝えていくということが大事です。今年読売ジャイアンツに1位指名された西舘君も一戸南小学校卒です。そういう意味では一戸とか岩手、県北も含めて、大谷翔平・菊池雄星だけでなく知名度はかなり上がっていると思います。うまくその辺を使ってPRしていくというのは大事ではないかと思います。

今年の縄文ウィークも10月にやっていただきました。いつもよりも充実した内容で、私はすごくよかったなと思っております。ラジオで村井美樹さんに来ていただいて、本当に良かったと思っております。確かにそのときはかなり人が来ていましたけれども、ただ、この時期はどここの市町村でもいろんなイベントがあります。やっぱり、私もそうですが、皆さんコロナ禍が明けてどこかに行きたいという衝動に駆られているのでしょう。そういう意味では、なかなかいっぱい集まってはもらえなかったとは思いますが、ああいう事業は大事だと思っております。時期は秋が確かに一番いいんですけども、春も夏も冬もいいですよ。四季の写真をPRしてはいますが、冬のイベントとか何かそういったものがやっぱり大事だと思いますので、その辺は町と一緒にやっていただければと思っております。

あと、私が思っているのは、前にも一度話をしましたが、岩手県は縄文遺跡が一番日本の中で多いという話です。8000 幾らだったと思います。特に県北が多いですね。洋野にしても、凄い遺跡がありますから。だから、この二戸・久慈管内この辺の縄文情報の遺跡を少し網羅した形で、この世界遺産の年代順の中のどこに当てはまって、どういう段階なのかということ、専門的な話を本当は誰かにまとめて欲しいわけです。振興局にはそういう担当の部署はないと思いますし、教育事務所でも難しいと思うので、県しかないと思うんですけど、そういったもので全体をこの縄文で結構盛り上げていくということも1つ大事なことだと思っておりますし、埋もれている遺跡がいっぱいあるんです。そういったことを思っていました。

一番は縄文のことについてですが、個人的に2つほどちょっとお願いしたいと思っております。1つは、馬淵川の河川工事のことです。私の古い家が当たってしまっていて、移転しなければならないと先月説明会を受けました。本当にやっとなんか、私はありがたいと思っております。ぜひ改修していただいて、安心な街になるようにして欲しいなと思っております。ただ、川幅を広げるといって、例えば護岸を築くだけではなくて、今住んでいる方たちが数軒あるんですけども、それを移転しなければならないということのようです。私はびっくりしました。そういう意味で、いろんな意見がありますから慎重な対応していただいて、早く出来上がるようにお願いしたいと思っております。用地取得を来年はやらないということのようですけど

も、やれるところからどんどん進められるのであれば、私は進めて欲しいなと思っております。よろしくお願いします。

もう1つは、都市計画路線です。うちの町内会のところにも大雨になると結局全然使えない2つのアンダーパスがあるんですが、線路のところには新しい道路ができるわけです。用地は大体終わったようですけども、できるだけ早めに行っていただければありがたいなという要望でございます。よろしくお願いします。以上です。

#### 【坊良局長】

御所野、これは本当にここの宝でありますので、今いただきました意見を十分踏まえながら、単なるPRだけではなく、連れてきてやっぱりここでお金を落とさせていただくというような形で、産業・所得の向上に繋がるように組み立てていきたいと考えています。その一つがこのアドベンチャーツーリズムでもあるんですけども、そういった形で検討させていただきたいと思います。

あと土木関係、古舘様は大体ご存じのようなので、簡単に。

#### 【工藤二戸土木センター所長】

馬淵川の河川改修につきましては、なるべく用地をかけない方が事業が早いんですが、どうしても狭いところは広げざるを得ないというところでの拡幅と橋の架け替えということで、工事に当たり、地権者の方々から貴重な土地ではございますが御協力をいただく必要がありますので、丁寧に説明しながら、これから先また詳細を詰めまして、来年用地の測量を進めていきたいと思っておりますので、引き続き御協力をいただければと思っております。

それから高善寺の方の都市計画道路も順次進めておりましたけれども、なかなかこちらも物件が多くて用地補償等の費用もかなりかかっているというところがあり、また、IGRの踏切の関係の設計を今進めていますけれども、そちらも大きく時間がかかるというところで、早めに工事に入りたいと思っていましたけど、もうちょっとお時間をいただければと思っております。よろしくお願いします。

#### 【坊良局長】

鉄道は、止めるわけにはいかない、通しながらやっていかなきゃならないということなので、一番そこが時間を要するところでもあります。いずれしっかり進捗を図ってまいります。

それでは最後になりましたけれども、カシオペア環境研究会の田家様お願いいたします。

#### 【田家構成員】

とても令和6年度の推進方針は素晴らしいなと思って読みました。すべてできればすごい効果があるんだろうなと思いますが、令和4年度の振興施策評価結果調書を見させていただくと、「概ね達成」を入れて7割達成というところがございますので、どうにか全て100%以上の「達成」となるように、やっていただきたいなと思っております。もしも「概ね達成」を達成した方に入れるのであれば、目標値を高くして、初めから80%できたら達成としてしま

えばいいのかなと思います。高い水準を目指していけるわけですから、その方が推進力があると思いますし、ちょっとこの表も違和感があって、「概ね達成」は達成してないわけですよ。勉強では、テストで 100 点を取るならば、120 点取るくらいのつもりで勉強しないと 100 点取れないものです。高いレベルを目指していく必要があるのかなと思っていますので、もしも「概ね達成」を達成とするのであれば、目標値をもっと高くして、80%で達成ですという評価の方が、頑張れるんじゃないかと思っています。達成できなかった原因が大体ここに書いてありまして、コロナ禍等ということではあります。令和 4 年度の所得増やすようなところ、「誇れる北いわての地域資源を生かした産業を展開し、意欲を持って働ける地域」は、本当に 100%達成したものが 18%ということですので、今回のところでは 100%達成できるような、高い心意気、目標を持って取り組んでいただきたいというのが一番でございます。

ほかに関しては、ちょっと環境にまつわるものが少ないなと思ったぐらいでありまして、特に今環境問題が取りざたされることがないのかと、それは素晴らしいことかなと思って、これを見させていただきました。

是非とも達成できるように頑張ってくださいと思います。よろしく申し上げます。以上です。

#### 【坊良局長】

ありがとうございます。菊池所長、環境関係の取組、県境産廃の関係をお願いします。

#### 【菊池二戸保健福祉環境センター所長】

田家様におかれましては、うちの事業も大分一緒になってやっていただいております。今年度、3年ぶりくらいに開催した環境フォーラムも盛況に終わりました。環境についての取組も、そういった地域経営推進費を使った事業もそうですし、二戸の地域でいえば、県境不法投棄の事案等もございました。フォーラムでも取り上げていただきましたし、記録誌の作成を今進めておりまして、その記録誌を県内外、或いはこの地域でも活用しながら、環境に関わっていただくような人材の育成等も一緒にやっていきたいと考えております。

そのほか、水質検査やそういった環境に関わる場所も、様々事業を進めることとしておりますので、また引き続き御意見もいただきながら、一緒になってやっていただければ助かるなと思いますのでよろしくお願いします。

#### 【坊良局長】

よろしく願いいたします。ありがとうございました。

大体皆様から一通り御発言をいただきました。それぞれの立場を踏まえながら、御意見を頂戴したわけですが、何か追加の御意見、或いは御質問等があれば、御発言をいただければと思います。いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、もう少しお時間ございます。

はい、川代様お願いいたします。

**【川代一枝構成員】**

自殺対策について、取り組んでいただいております。久慈地域でも、ゲートキーパーの養成のため年に1回研修を開催しておりますが、何よりもきちんと連携することの大切さを実感しております。

さらには、食生活。子どもたちが将来の精神的なストレスに対する強い体をつくるためにも、食事。それから、いわゆる慢性生活習慣病予防のため減塩に取り組んでいただいておりますが、何よりも若いときからこれに取り組むこと。この知識を受けて、現役のお母様たち、そして小中学生の子どもさんたちが、もちろん学校の家庭科でも学習されると思うんですが、もう一步現実的に進んだことができれば、将来の糖尿病や生活習慣病予防になり、なおかつ介護予防にもつながるかと思えます。

何よりも、働き盛りの自殺対策に、私たちも地域に寄り添ってまいりますので、ぜひ、力を貸していただきたいと存じます。

**【坊良局長】**

では、菊池所長、お願いします。

**【菊池二戸保健福祉環境センター所長】**

自殺対策につきましては、御案内いただいたとおり、県北地域で自殺者が多くなっているということで非常に問題にもなっているところがございますので、重点的に取り組むことの一つとして様々取組を行っております。今お話いただいたゲートキーパーの養成や傾聴ボランティアの養成など、地域の方々と一緒になって取組を進めております。また、この地域は高齢者と働き盛り世代の方の自殺率が高いということがございますので、働き盛り世代の方に対しては、事業所訪問して、企業の方々にもそういった世代の方のケアも一緒になって考えていただきながら、そういった方々を守っていくということも取り組みたいと考えております。

また、若い世代、小学生等の健康づくり、食事、生活習慣病予防についてですが、今の健康づくりの関係の計画の改定時期でございます。おっしゃっていただいたとおり、二戸地域は実は肥満がちょっと多かったということもあるので、若いときからきちっとした食生活に取り組む等をこのプランの中にも盛り込みながら、実際に市町村の方々に動いていただく、一緒になってやっていただく場面が多くございますので、そういった方々と一緒になって、今お話いただいたような、食育、生活習慣のような健康づくりについても、様々な取組がございましたので、その取組の中で少しずつ改善していくように、健やかな地域がつけられるように取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

**【坊良局長】**

そのほか、何かありませんでしょうか。どうぞ、田家様。

**【田家構成員】**

資料2の幸福に感じる割合の件ですけど、質問事項はこの12点だけでしょうか。ほかにもあるのでしょうか。

**【山本企画推進課長】**

お手元の資料2の1ページの2 調査の概要(6) 調査項目を見ていただきますと、57項目ありまして、今回の検討の際、参考ということで幸福度に関するところだけ抜粋してお示したものですから、これに関する設問が12問だったということでございます。

**【田家構成員】**

わかりました。幸福度に関する項目がこの12項目ですね。

**【山本企画推進課長】**

そうですね。

**【坊良局長】**

その他、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日は大変貴重な御意見いただきありがとうございました。我々が今まで考えていなかった御意見を頂戴いたしました。本日いただいた御意見につきましては、今後の施策推進の参考にさせていただきたいと思っております。

今後とも様々な場面、お立場から御指導、御助言、御提案をよろしくをお願いをしたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

進行の方は事務局にお返しいたします。

## 4 その他

**【阿部副局長】**

それでは、最後の4 その他でございますが、構成員の皆様、或いは県側の方から何かございますでしょうか。

**【鎌田二戸地域振興センター所長】**

構成員に対し、12月15日開催の北いわて未来づくりネットワーク研修会等の案内及び周知依頼

## 5 閉会

### 【阿部副局長】

それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回地域運営懇談会を終了させていただきます。改めまして構成員の皆様におかれましては、2年にわたり、貴重な御意見を頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。

なお、御出席いただいた皆様には、後日振興局から御礼の品を送らせていただきたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。